

平成 25 年度 活動報告

[] 協議会内活動

1 . 定時代表者会議の議案承認

隔年度開催の慣例に基づき、文書による承認請求で代行し議案は承認された。

2 . 定例世話人会の開催

定例的開催を 6 回、臨時会を 3 回 東京都障害者福祉会館に於いて開催した。定例会議では協議会の円滑な運営について及び今後の活動の方向性の協議、臨時会では勉強会開催、代表者懇談会の準備や整理をするなど行った。25 年は特別に参加くださった方も居られて協議会の方向性についての貴重なご意見も伺った。

3 . 会報の定期発行

平成 25 年度は予定の通り 3 回の発行を行い(第 44 号・7 月、第 45 号・11 月、第 46 号・3 月) 協議会の活動状況報告、世話会の開催状況など協議会会員間の情報交流を図った。また、筑波大学附属視覚特別支援学校宇野先生のご寄稿を掲載し外部関係者との間の理解をさらに深めるのに役立てた。

4 . 高校拡大教科書の取り組み強化

高校拡大教科書の製作の情報をアンケートによって収集し実態を把握し、製作しているグループの製作を実績表にまとめて HP に掲載し会員間で共有が出来た。中学校時代の拡大教科書の普及の影響で今後利用希望者が増えることも予想される。実際、中高一貫校からの製作依頼も来るなど従来は遠慮して差し控えていた利用者からの依頼が徐々に増える傾向にあり、協議会として製作を行う会員を増やすなど体制を強める必要を感じた。

5 . 地域活動の促進

地域との連携を図り、会員が白黒反転を初めての試みる際や副教材の拡大製作などへの挑戦を支援し、拡大図書製作技能を向上する活動を目指した。しかしながら、標準拡大教科書の普及を受けて、会自体の閉会や協議会からの退会など地域によって会員の減少があった。一方で、白黒反転や大文字による教科書の製作、副教材の依頼、また、盲学校からの依頼など、従来とは変化した要求にこたえて多忙になったグループが相当あった。協議会として地域間や会員間の状況に差が生まれている。

6 . 協議会のホームページの充実を推進

拡大教科書の利用者への情報提供、会員間の情報と技術の共有などホームページの有効活用は徐々に促進されている。なお、利用者が必要な情報提供の点では、弱視者の団体や図書館など関係する機関とのリンクを増やすなど、今後努力が必要である。

7 . 勉強会の開催

これからは “ トータルな学習環境に貢献する ” ことが大切であるとの認識にたち、教科書以外の分野に広げるための勉強会を 11 月 29 日東京都障害者福祉会館において開催した。今回のテーマは、“ 弱視を学ぶ ” とし、視覚障害者、特に弱視の児童生徒が日常生活で本当に困っているところは何かをさらに深く知るための内容に重きを置いた。講師にお迎えした慶応義塾大学の中野泰志先生の熱意のおかげで盛会であった。

8 . 教科書出版社との共作の試みを開始

5月30日に教科書協会拡大写本委員会からの依頼を受けて、7,8月のシンポジウムとアンケートにより全会員の意見を収集した。意見は拮抗したが、その後共作を是とするグループを中心に専門チームが協議会とは別にできて、出版社との打ち合わせが進んだ。年度の後半では、出版社と制作担当グループ間によるサンプル制作による評価段階になっている。

[] 対外活動

拡大図書の制作提供体制を教科書に加えて拡大教科書以外にも広げるために必要な対外活動を主にした。

1. 著作権許諾事務の緩和

著作権許諾事務の課題を緩和するため出版社協会・児童書部会に赴き、出版社や著者、絵本作家等と協議して、学齢期の児童書や絵本、童話などの拡大写本の制作提供に関わる著作権許諾の理解を頂くことに努めた。

また、日盲連、弱聞研などと協調して文化庁著作権課に陳情し、著作権の許諾権行使に際しての運用基準を見直して名実ともに拡大図書ボランティアへも適用するように求めた(37条3項の解釈と運用基準問題)。

2. 協議会活動の広報

関係者・関係機関へ新しい時代の協議会活動の周知を図るため会報ともどもホームページ活用を推進した。

特に、筑波大学附属視覚特別支援学校の宇野先生のご指導とご支援により、NHKラジオや弱問研機関紙「つうしん」など各種メディアにも広報を初めての試みとして行った。従来は協議会会員とつながりにくいところがあった利用希望者との橋渡しにつながるいくつかの成果が出た。

3. 富士ゼロックス社との交流

富士ゼロックス社からは例年と同様のコピー機使用のご協力をいただくとともに、文部科学省からの教科書デジタルデータ提供について、ご協力をいただいた。教科書協会との連携の検討の際にもご出席頂き、貴重なご意見を頂いた。

4. ジャストシステム社との交流

協議会活動への理解を引き続き頂き、例年同様に拡大教科書制作に多く活用されているワープロソフトおよびOCRソフトの無償提供の協力をいただいた。

5. 慶応義塾大学の中野泰志先生は、文部科学省の委託研究事業として「教科書デジタルデータを活用した電子教科書」に関する調査研究を進められている。協議会世話人もこのプロジェクトに注目し中間発表のシンポジウムに参加した。

また、標準拡大教科書のサンプル集をまとめられ、協議会も完成したサンプル集の寄贈をいただき、会員全部に配布した。

6. 利用者への情報提供

協議会事務局は全国の学校・教育委員会、盲学校、個人等から拡大教科書に関する相談、問い合わせを受け、会員間の情報ネットを活かした協力によって積極的に対応することが出来た。

以上